

## ウ 《スポット評価のまとめ》

鎌倉市行政評価アドバイザー

鎌倉市民評価委員会委員（専門評価委員） 川口 和英

### 「子育て（主に子育て支援事業、保育所等整備事業）」の選定理由

全国的に少子高齢化・人口減少が問題とされ、鎌倉市においても平成27年度事業として地方版総合戦略の策定中である。保育所の待機児童問題についても、鎌倉市の待機児童が50人との報道がある中、今後人口増加に向けた取り組みの中でも重要な、子育て支援、保育所整備等について、鎌倉市の状況と今後の対策について掘り下げることが目的として選定した。

### 評価結果のまとめ

#### 1. 施策等の推進に向けた意見・提言

##### [すべての子育て家庭への支援]

- ・子育てに関する事業は極めて多岐にわたり、一部施設整備で遅れがあったものの、すでにリカバリーされており、概ね滞りなく進められている点は評価できる。地域や関連機関との連携など、子育てに関する相談体制の充実を図ることが目指されている。近年、育児放棄や児童虐待が実数として少なくなってきたことは、よい傾向と考えられる。
- ・子育てに関し重要度、力を入れるべきかどうか等意識調査の結果はいずれもは高く、費用面に関しては「使いすぎ」の割合は低くなっており、子育てに対する施策への期待は大きい。
- ・市民にとって関心の高いテーマであり、今後も「潜在需要喚起に伴う需要増加」「地域的環境変化」等にも対応した対策が必要となることから、画一的な手立てに拘泥せず柔軟に対応する必要があると考える。
- ・子育て分野には様々ニーズがあり、すべての市民を満足させる事は困難だと思われるが、拠点園による私立保育園への支援等、出来るだけ不公平感を無くし、将来につながる取り組みが行われる事を期待する。
- ・鎌倉市は各種手立てを講じ平成29年度中の「待機児童解消」を目指していて一定の評価を与えることが出来る。
- ・また「子どもと家庭の相談室」においては、相談体制の充実や、業務内容の充実を図っている。具体的には、平成26年には虐待164件（43%）、養護相談、障害児の相談などがある。

・相談体制が充実されつつあるが、相談に来れない人たちの中に問題を抱えている人も多いと思われるので、今後、虐待・育児放棄、子どもの貧困の連鎖防止等、発生抑制に力を入れるべきである。

・子育て分野には様々なニーズがあり、すべての市民を満足させる事は困難だと思われるが、拠点園による私立保育園への支援等、出来るだけ不公平感を無くし、将来につながる取り組みが行われる事を期待する。

・待機児童解消のために、着実に施設の整備に努めている。

・各種相談事業や家庭訪問の充実に期待する。相談事業も多岐に渡り、子育て家庭の問題点を見つけるのは難しい面もあると思われるが、新設される子育て支援センターなどもその役割を担ってほしい。

・待機児童対策として保育施設整備だけが取り上げられる傾向が見られるが、地域で子育て支援をする体制（ファミサポ、家庭的保育等）の充実に図り、保育施設整備を補完していくことが望まれる。また、一時預かりに関しては、突発的な需要への対応が求められており、地域での預かり、見守りの仕組みが極めて重要となる。

#### [子育て支援施設の整備]

・各地域に拠点園を1カ所設置し、他の保育園のサポートや、障害児の受け入れ、虐待・育児放棄等の早期発見に対処しようとする姿勢はとても大切であり、評価したい。待機児童解消に向けての様々な対応、また子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、子育て環境の充実にめざし、施設を整えつつあることは、評価できる。

・鎌倉市子ども・子育てきらきらプランに基づき、待機児童の解消をめざし、公立5園を拠点校とし、保育の充実、情報の発信など、地域全体としての子育て支援体制を確立してほしい。

・基本的に「民で出来ることは民でやるべきである」と考えるが、「5拠点園構想」は理解出来る。拠点園には単に「私立保育所保育士臨時欠員対策」にとどまらず、多数を占める私立保育所に対する「より高質な支援」を提供する機能・役割を付与すべきと考える。

・すべて公でまかなえる時代ではなくなった。公でやらなければならないこと、市民等との協働で行うこと、民にまかせることを棲み分け、多様化するニーズに応えていただけるよう期待する。

・子育て支援センターと保育園のある玉縄こどもセンターの建て替え、育児支援を総合的に行う機会として期待する。同じく、子育て支援センターと障害児放課後余暇施設を併設する由比ヶ浜こどもセンターの建設に合わせて、支援の内容充実に期待する。

・大船駅近くに新たな保育園を整備する事は、働いている保護者にとっては非常にありがたいことだと思う。今後も、子どもの安全性を第一に、利用者である保護者の利便性も考えて、施設を整備することで「子育てのしやすい地域」として成長していくのではないかな。

## 2. 施策等の推進における課題・問題点

### [すべての子育て家庭への支援]

・保育施設の整備が進むことで、潜在需要を喚起する側面もある。今後もさらに施設を増加させることが、市民から求められてはいるものの、財源にも限りがあり、将来ニーズも勘案しながら、戦略的に整備をしていくべきである。鎌倉市においてもこれまで施設の充実(定員の増加)を行ってきたが、結果として50人の待機児童がある。需要創出型であることは担当課としても認識していたが、そのことを踏まえた施設整備のあり方、整備計画が検討される必要がある。

・行政がすべてのサービスを請け負い、ニーズに応じていくことは現代では難しいと考えられる。施設整備のみに頼るのではなく、ある程度市民参画や地域で子どもを見る方向性などにより、負担を軽減していく方向性を考える必要があると思われる。

・今後は限られた財源の中で、創意工夫が必要であろう。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におく必要もあると考えられる。

・子ども・子育て支援新制度は、かつての次世代育成行動計画に比べて、子どもの成長よりも母親の就労対応に力点が置かれているように感じる。もっとも重要なのは、次世代を担う子どもたちの健全かつ健康的な成長であることを忘れてはならない。

・その意味では、虐待、育児放棄、子どもの貧困に対する対策が極めて重要であり、子どもの誰もが等しく成長に向けた支援が受けられるよう配慮が求められる。すでに虐待、育児放棄等に対する対策会議や相談体制が形成されているが、それらは、虐待や育児放棄の予防にはまだまだなり得ていない。

・育児放棄や児童虐待の予防、早期発見に向けた取組の強化、子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実。

・子育て支援のハード面である施設の整備が充実しているが、支援内容の充実を図らなければ活用できない。ニーズに合ったものになるよう努力してほしい。

### [子育て支援施設の整備]

・公開行政評価の場では、公に対する安心感、民に対する不安感を指摘する声もあったが、民営化とは手放して民間に任せるのではなく、公の指導、管理の下で、民の力を発揮してもらうことだと考える。他都市ではすでに拠点園に相当する機能も民営化されているところもみられる。

・保育園、こどもセンター、子育て支援センター、子どもの家、子ども会館等、施設の充実をはかり、体制を整えているが、子育て親のニーズに応えきれていない問題はどこにあるのか、システムは整えても、一人、一人の対応の仕方が市民(子育て親)に通じているのか、相談に行っただけで、何の解決にも繋がらない等、一人一人の思いに寄り添い、相談を受ける姿勢が市民の心に響く。

・何でも市にやってもらおうと大多数の市民は思っていないと思う。対応の一つではないだろうか。

・現在は0～2歳の保育が求められている。保育士資格を持つ人を登録しパート採用するなど工夫して、人材確保、人材活用を行いたい。

・鎌倉は子育てのしにくい地域だという意見に危機感を覚える。保育園だけではなく、子ども預かりの機能を持つ複合施設など、多様なかたちでの子育て施設のありかたを地域全体で考え、行政にイニシアチブを握って推進して欲しい。

また、これら子育て施設不足の根底にあるのは、それを担う働き手(主に保育士など)の待遇や働き方の問題だと思う。これらの問題についても、行政立場からも対策を立てていくべきではないか。

## 「歴史環境（主に史跡整備・文化財関連）」の選定理由

歴史環境は、鎌倉市民にとって非常に関心が高い分野であり、鎌倉のまちの特性となっている。世界遺産登録申請取り下げ後の新たな方針のもと、鎌倉市の観光の中心ともなっている史跡や文化財について、どのように保全整備されているか、掘り下げることが目的として選定した。

## 評価結果のまとめ

### 1. 施策等の推進に向けた意見・提言

#### [歴史的遺産、文化財の保全の費用について]

・鎌倉はその豊かな歴史性、地域的特性から、歴史的遺産や、文化財の保護が宿命であることは理解できる。また鎌倉市民意識調査においても、歴史的文化に対する関心度は高い。

・歴史的風土の保全に関しては費用面、力を入れるかという面でも評価が高い傾向があり、歴史環境に対する重要度は高く、鎌倉市の特性が現れている。

・文化財指定件数が近年大幅に増えている状況にある。文化財の状況を適切に把握し、修繕の緊急性、重要性に応じた保存活動は必要である。概ね必要そうな事業や金額であると理解できるが、かける費用に対して相応の説明力が必要である。個別の史跡、文化財の保全や調査に関しては費用面で「かけ過ぎ」、「力を入れなくてもよい」の割合が高い。

・多くの市民はイメージとしての古都鎌倉への思いが強く、その維持保全に多額の費用を要することは必ずしも理解されていない可能性がある。各事業が限られた財源の中で施策の方針（歴史的資源の保全）に沿って概ね滞りなく進められている点は評価したい。

・文化財保護については、限られた予算の中、優先順位に配慮しながら、適切に保護に関する事業が行われている。

・鎌倉には、貴重な歴史的遺産があり、修理・保存管理、整備・継承がなされている。しかし、多大な経費もかかり、重要度、緊急度を測り、優先順位を決め、適切に行ってほしい。

・国指定、県指定の文化財等への国県の負担額からみれば鎌倉市の負担は低く抑えられている。すでに重要度、緊急度を踏まえ優先度を決めて執行されていると思われるが、今後もその方向を継続していただきたい。

・研究発表会、文化財めぐり、公開講座など周知啓発活動に力を入れている点は良いと思う。どのような文化財を保有しているのか、よく分からない市民も多いと思われる。

#### [ (仮称) 鎌倉歴史文化交流センターについて ]

・(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターは閑静な住宅地内に立地することから、その周辺環境への配慮は必要であるものの、鎌倉の文化情報を発信する施設として、興味をひく魅力的な施設である必要があると考える。

・学習をしにくる小学生・中高生が、鎌倉の歴史文化に、多いに興味を持ち、「鎌倉時代」に思いをはせることができるようなコンテンツを希望する。

・歴史的資源は保全・修復に加えて、その活用も求められており、(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターへの期待は大きいと思われることから、積極的な利用方策を検討していただきたい。教育施設との位置づけであるが、併せて鎌倉の魅力を新たに発信する機能でもあり、よりよい施設整備を進められたい。

・寄贈された建物(敷地も含む)を(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターとして整備活用されることは、市民にとって真に鎌倉が歴史文化遺産に囲まれたところであることを認識させる場所となると思われる。そのような場所になることを期待する。

・教育施設とは言え、設置場所、今後の周辺整備(博物館の整備等—きちんとした話はなかったが)等を考慮すれば、施設の維持費用、更新費用等を自ら捻出する方策はいろいろ考えられると思うので、周辺住民との対話を継続し、積極的な活用の方法を検討していただきたい。そのためにも、施設整備と併せて、その運用、展示内容、情報発信などソフト面の充実を図る必要がある。

・貴重な文化財の展示施設は、ただの博物館・美術館というだけでなく、現在学校教育の場としても活かしているように、今後も様々なアプローチで施設を活用してほしい。

## 2. 施策等の推進における課題・問題点

#### [ 歴史的遺産、文化財の保全の費用について ]

・文化財保護は、鎌倉市では必要な施策であることは誰もが認めるところであるが、大きな財源を必要とするものでもあり、また、今後も新たな資源が発掘されることを考えると、すべてを同じように保全していくことは極めて難しいのではないだろうか。費用対効果の算出は難しいとしても、かけた費用に対する説明力や、これを意識した運営が求められる。中長期的な視点、持続可能性という視点を持ちながら進めていく必要がある。

・一方で、財源は限られている状況にあり、文化財の指定件数が増えるなか、緊急度や必要性に応じた、取捨選択、優先順位などを考慮検討していく必要があるだろう。

・文化財保護について、今後も指定文化財数が増加するに伴い、それらを保存するためのコストも増加する事になる。市によって行われている事業の中における、この事業のプライオリティを考慮して、将来的には他の方法による保存（他市に預ける等）や保存を断念する事も考えていただきたい。

・それなりに予算規模が膨らむ施策であると思う。それらについて市民に了解を得る、という意味でも調査報告や、管理・整備した史跡がどのように貴重な財産であるのかを、市民に公開して行ってほしい。

・史跡の公有地化を図り、公開、活用を進めているが、整備及び維持管理の財源確保が必須である。他の文化都市や海外の例なども調べて、財源確保への努力に期待する。

#### [（仮称）鎌倉歴史文化交流センターについて]

・（仮称）鎌倉歴史文化交流センターは教育施設であると理解をできるが、現行の計画は土器類の埋設物の展示が中心であり、内容としてあまり、面白みがない可能性がある。

・年間 3500 万円近い運営費負担に対しては、その差額を埋める工夫も必要である。現在は例えばレストランなどの経営は排除されているが、自らの工夫でランニングコストを工夫によってまかなっていくなどの積極性が必要である。

・周辺への影響を考慮しながらも、実際に訪問する人が多いであろう観光客対策は不可欠であるが、具体的な方向性は示されていない。観光セクション、都市整備セクションとの連携を図っていただきたいところであるが、担当者の任務は整備するところまでといったセクションナリズムを感じたのは私だけではないと思う。担当が文化財の保全活用という視点だけで進めるのはいかがなものかと思う。

・史跡の公有地化を図り、公開、活用を進めているが、整備及び維持管理の財源確保が必須である。他の文化都市や海外の例なども調べて、財源確保への努力に期待する。

・今後の取り組みにある（仮称）鎌倉歴史文化交流センター整備事業は、立地も良く、市民、市外の来訪者に親しまれる歴史センターにしていただきたい。鎌倉の歴史を学ぶ起点としての場所がこれまで無かったので、子どもから大人が楽しめる場所を望む。収支の採算も取り、市の財政に負担にならないことを期待する。

・本来施設は、「どの様な目的を達成するために（効果を得るために）」「そこで何を行うか」を明確にし、さらに「施設は維持できるのか（サステイナビリティ）」や「費用対効果は十分か（コストパフォーマンス）」等についても十分検討した上で、取得（有無）を判断するものである。（仮称）鎌倉歴史文化交流センターの開設に当たっては、取得ありきであり、そこで行われる展示や教育内容について、ほとんど議論されていない。建築だけではなく、早急に開設後に行う展示や教育事業について検討して頂きたい。

・（仮称）鎌倉歴史文化交流センター開設に当たっては、多数の来訪者が予想されるため、「防災」や「観光」「交通」等、他の分野の担当部局とも連携し、適切に対処して頂きたい。

・周辺環境への配慮をしながら、地域の人々にも愛される施設となるには、施設が提供する付加価値も考慮していくべき。地域住民への定期的な無料入館や割引などによって理解を得ていく等、様々な工夫がなされるべきである。